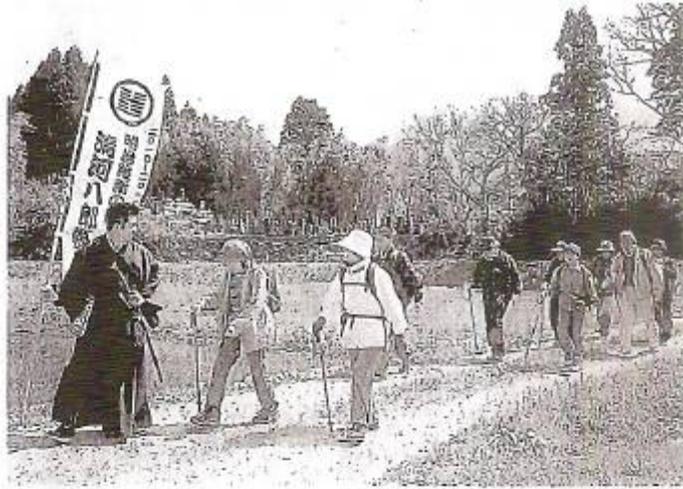


清河八郎が歩いた道をたどるツアーの参加者ら
(5月7日、庄内町肝煎、元気・まちネット提供)



散策ツアーやシンポ開催

旧立川町は、尊皇攘夷運動などに携わった幕末の志士・清河八郎(1830〜63年)の出身地だ。郷土の偉人である清河八郎にちなんだ散策ツアーやシンポジウムが開かれている。

から名を取り、「清河八郎」と名乗ったとされる。その清河が最近、地元で脚光を浴びるようになった。きっかけを作ったのは、全国で街おこしなどを手がけるNPO法人「元気・まちネット」

両団体はこれを機に活動を活発化。昨年4月に庄内町で生誕180年を記念したシンポジウムを開き、整備した峠道の散策ツアーも行った。シンポジウムは昨年12月に東京都でも開催、翌日には清河

郷土の幕末志士に脚光

が北辰一刀流を学んだ千葉周作道場跡や刺客

清河は若くして江戸に学び、文武両道を修めた才人。新撰組の前身で、尊皇攘夷をめざす「浪士組」を結成するなど討幕運動のさきがけとして活躍した。本名は斎藤元司だが、江戸で塾を開く際に旧立川町の一部だった「清川村」

(東京都)の矢口正武代表。旧立川町の隣の戸沢村出身で、清河の江戸までのルートを調査していた。庄内町と鶴岡市を結ぶ道が分かったことから、昨年、地元の清河八郎顕彰会のメンバーらに協力を求め、道の整備に乗り出した。

に暗殺された麻布の一の橋などを巡る見学会も行った。矢口代表は、「これからも地域の活性化のお手伝いができれば」と言い、顕彰会の正木尚文副会長は、「地域の偉人を後世に伝えていかなくてはいけない」と話した。